

二本松地区納税貯蓄組合連合会長賞

明日をより明るくするために

二本松市立二本松第三中学校

三年 伊藤 はづき

安全で楽しく、平和な毎日。私は今まで、それを「当たり前」だと思っていた。しかし、その当たり前な日々は、税金という貴重なお金のおかげで過ごすことができているのだ。

税金について考えて、その大切さと身近さに改めて私は気づかされた。通学時に歩く道路も、そして私の通う中学校も、その中の机や椅子や黒板も、全て税金でできているのだ。もしも税金がなかったら、と考えてみた。一番に思いつくのは学校生活だ。税金がなければ、もちろん学校へは行けない。友達と楽しい時間を過ごすことも、授業を通して多くの知識を学ぶことも、全てできなくなるのだ。税金が無ければ、今までの充実した日々を送ることが不可能になってしまう。とすると、私は毎日、税金に支えられて生きてきたのだ。私は手元にある教科書をパラパラと開いて

みた。小学校から中学三年生である今まで、多くのことを教科書から学んできた。今までに学んできたたくさんの知識は、私の心を豊かに、そして生活を色彩豊かなものに変えてきてくれた。私だけではない、全ての人に、同じことが言えるのだ。その教科書は、税金のおかげで、無償で使ってきたものでもある。

私は感謝の気持ちでいっぱいになった。今の私があるのは、税金のおかげなのだ。そしてその税金に、私は違った方向からも関わっている。そう、私も納税者の一人なのだ。物を買ったと、必ず払わなければならない消費税。私は今まで、それが余分なものと感じられなかった。しかし、私の払ったその税金は、多くの人々、そして自分の笑顔につながっているのだと思うと、嬉しい気持ちが心の底から湧き上がってくる。

つい先日、九州、中国地方で集中豪雨があつた。たくさんの方が被害を受け、建物や家屋が壊れてしまった。私は、テレビで見た一

シーンがどうしても忘れられない。それは、土石流が発生し、木々が倒され、アスファルトの道路がえぐりとられていて、何とも悲惨なシーンだった。道路を直すのに、税金を使うのだろう。そう思うと、少しだけ、嬉しくなった。その税金を、私は納税している一人なのだ、と。

税金の向こう側にあるもの、それは、笑顔なのではないかと私は思う。暮らしを豊かに、安全に平和に…税金はしてくれているのだから。そして今私は、その税金について改めて見直し考えるべきなのではないだろうか。税金に興味や関心のない人はきつとたくさんいるだろうと思う。私もその一人だった。しかし、これからこの日本の社会を担っていくうえで、税金の使い道や有効活用方法を多くの人と共に考えることが、日本をより良い国にするための一歩となるはずだ。

私もまず、小さなことから見直していこうと思う。それはきつと、明日をもっと明るくしてくれと思うからだ。

